

冬号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195

ご愛読、ありがとうございます。

みどり通信125号を発行することができました。季節のワンポイントアドバイスなど、毎号楽しみに読んでいますと言われたときは嬉しかったあ\(^o^)/
原稿を書いてくださる樹木医 熊田一実氏に、この場を借りて御礼を申し上げます。今後も皆さんに親しまれる紙面づくりにしていきたいと思えます。

次回をお楽しみに(^_-)☆

(ヒマラヤシーダーの実) ⇒



次回のみどり講習会

日時：平成30年3月4日(日) 10:00~

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹交付申請者及び希望者

内容：サザンカ、ツバキの花後の管理

受講料無料ですので、

お気軽にお越しください。

My ガーデニング・・・季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

露地植えの場合は、よほど乾燥が続かない限り必要はありません。でも、秋以降に植え替えて間もない樹木などは、あげた水がその日の内に乾き凍らないように、暖かい日の午前中に水やりをします。また、通気性を良くしている鉢植えは乾燥しやすいので、気を付けて状態を確認して水やりをします。寒さに弱い植物(洋ラン類)は、ぬるま湯をあげて根を傷めないようにします。乾燥や凍結防止のために、腐葉土でマルチングをすると良いです。

【植替え】

落葉樹は、厳寒期を除けば適期です。剪定と同じく太い根を切断してもダメージは少なく済みます。針葉樹も可能ですが、3月下旬まで待った方が無難です。カエデ類やポタン、シャクヤクは落葉樹と言っても遅すぎます。常緑樹は、この時期は避け暖かくなった3月下旬から行います。

多くの樹木に共通している良い土壌は、赤玉土6~7割、腐葉土3~7割が基本です。黒土が一番良いと考えるのは改めた方がいいでしょう。

【肥料】

この時期に寒肥を与えます。骨粉入りの発酵済み油粕などの緩効性有機質肥料をあげるとゆっくり長く効果があるので、樹木には一番適しています。春先の芽の伸びが違います。できれば、穴を掘って腐葉土や炭なども混ぜて肥料を埋めてあげると土壌改良にもなり有効に根に届きます。油粕は、肥料成分が低いために仮に多く与えても肥料焼けの心配が少ないですね。

【天地返し】

天地返し??って!

何だろうと思いますよね。

天地返しとは、表面の土と裏の土(地面の下の土のこと)を掘りおこしてひっくり返すことを言います。

この厳寒期に庭の土を掘りおこして、土塊をそのまま寒さにさらすと、病害虫や雑草を退治することができます。また粘質土の場合は、スコップなどで掘りおこして土塊をそのまま表面積を多くして寒さにさらして置くと、土が崩れてサラサラになり植物が育ちやすい性質に変わります。春に堆肥を混ぜて植物を植えます。

【病害虫】

(アブラムシやカイガラムシ)

冬の間だけに散布できる薬剤の、マシン油乳剤、石灰硫黄合剤が効果的です。落葉果樹に、この薬剤を春先までに**2回散布**しておく効果があります。ただ、石灰硫黄合剤はアルカリ性の成分のため薬害も多く出やすいので、使用には注意が必要です。また、どちらの薬剤も常緑樹に**濃い倍率で散布すると、春先に異常落葉**することがありますので、くれぐれも使用するときは、取扱いに注意して使用方法・使用量を必ず守ってください。

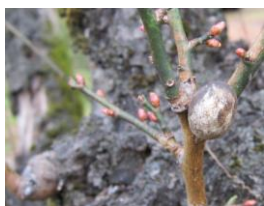
～薬剤の散布を控えたい場合～

*カイガラムシは、枝についているところをヘラなどでそぎ落とします。アブラムシは、春先にカエデ類の芽の所にびっしりとついていたりするので、見かけたらすぐ散らないうちに防除します。

(カイガラムシ)



(イラガの繭)



(イラガ)

刺されると痛い痒みがでるイラガは、固い繭(1cm弱でウズラの卵を小さくした)で越冬しています。この蛹(さなぎ)の状態のうちに取り除いておくことが大切です。卵塊(卵のかたまり)は、見つけ次第取り除きます。

(ケムシ)・・・マツカレハ

針葉樹につくケムシ(マツカレハ)は、枝の込み入った場所で越冬しています。まだ小さなこの時期に退治しておくことが大切です。マツノザイセンチュウによるマツ枯れが目立ちます。枯れたマツは、早めに処分をして次の発生を防ぎます。

(ごま色斑点病)

セイヨウベニカナメは、ごま色斑点病が目立ちます。治療が難しい病気です。

(黒星病)

バラは、黒星病が毎年発生しやすいので、もし発病していたら早めに対処してください。



(うどんこ病)



(黒星病)

～落ち葉は綺麗に掃き集め処分することが、次の病害虫の発生を防ぎます。

【剪定】

常緑樹の剪定は、弱ってしまうのでこの厳寒期は行いません。早くても3月下旬まで待ちます。落葉樹の剪定は、この時期が適期になりますが、切り過ぎないように。カエデ類はすでに水の通導が始まっているので、切り口から樹液が漏れて弱ってしまいます。ツルを伸ばす果樹類も年内に剪定を終わらせておきます。庭木は、普段より太い枝を切ってもダメージが少ないですが、街路樹のように剪定をしてはだめです。

春に咲く樹木は、すでに蕾や花芽が枝についているので、切り過ぎるとなくなってしまいます。夏に咲くサルスベリなどは、春先から伸びた強い枝に花がつくので弱い枝は切り、強い枝を切り詰めて残します。大きく育ち過ぎたヤマボウシやナツツバキなどは根元から切って、株立ち状に仕立て直すこともこの時期は可能です。但し、すべてが萌芽するとは限らず枯れてしまうこともあります。

針葉樹も春先まで待ちます。ただマツ類は込み過ぎた枝を整理して雪害から守ります。この時期に行なう透かし剪定は、樹勢を弱らせることなく綺麗な樹形が保てます。5月頃にみどり摘みを行いこの時期に剪定をするのが好ましいです。

